

第3章 米子市の現状と課題

I 各種統計データから見た米子市の現状

(I) 人口の推移及び将来の人口推計

本市の人口は、今後減少が続いていくことが予想されます。年代別に見ると、65歳以上人口は2040年から2050年頃まで概ね増加している一方、年少人口は概ね減少し続け、生産年齢人口はさらに大きく減少し続けていくことが予想されます。

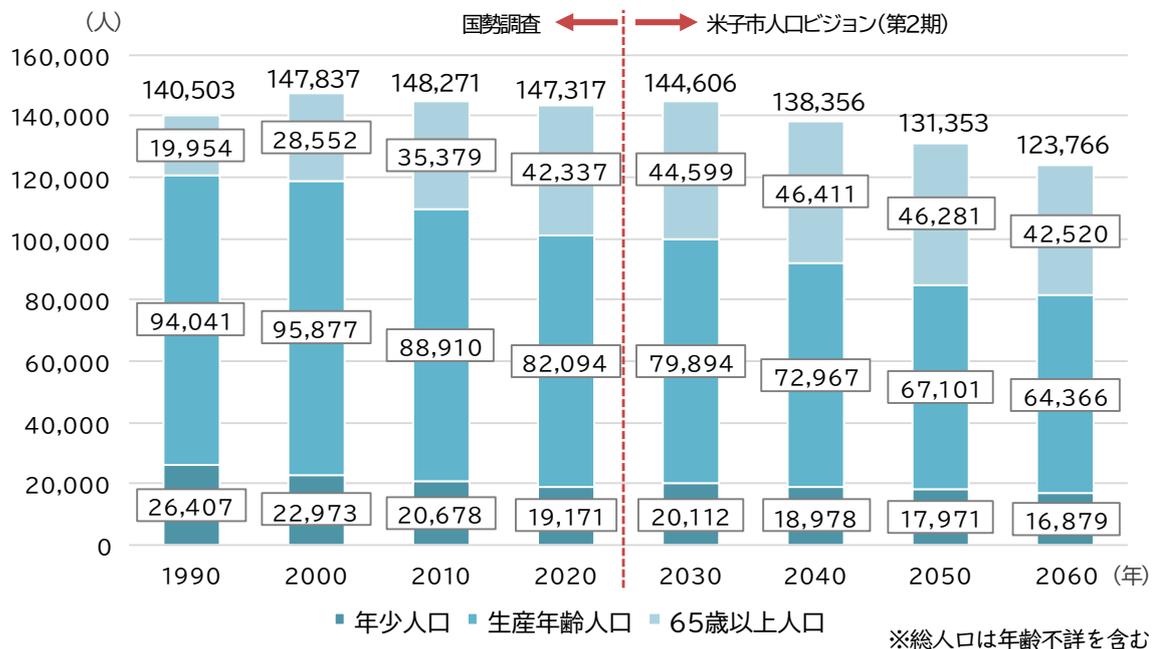


図1 人口の推移及び将来の人口推計

出典：「国勢調査」（総務省統計局）、米子市人口ビジョン（第2期）

(2) 世帯の状況

① 世帯数及び一世帯当たりの人員の推移

本市の世帯数は増加傾向にある一方、一世帯当たりの人員は減少しており、世帯規模が縮小していることが分かります。



図 2 世帯数及び世帯当たり人員の推移

出典：「国勢調査」(総務省統計局)

② 世帯の家族類型別推移

国勢調査における世帯の家族類型は次のとおり分類されます。

表 1 国勢調査における世帯の家族類型

家族類型	
親族世帯	2人以上の世帯員からなる世帯のうち、世帯主と親族関係にある世帯員のいる世帯
	核家族世帯
	核家族以外の親族世帯
非親族を含む世帯	2人以上の世帯員からなる世帯のうち、世帯主と親族関係にない人がいる世帯
	単独世帯
	65歳以上世帯員の単独世帯

国勢調査における世帯の家族類型別推移を見ると、2000年の数値に対し、核家族以外の親族世帯数が減少している一方、単独世帯数が大きく増加していることが分かります。

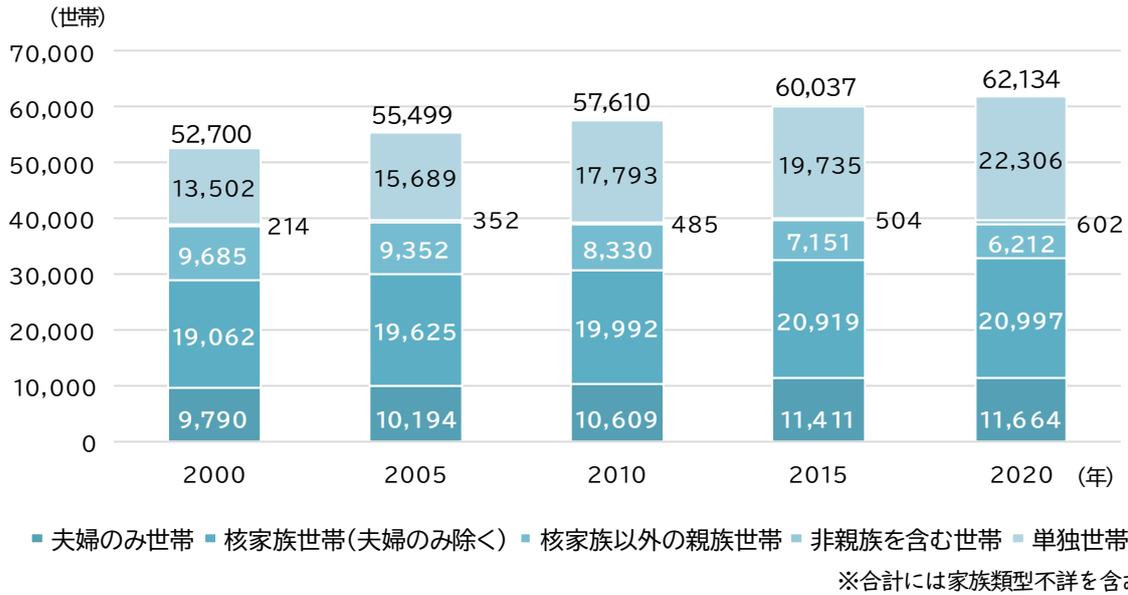


図3 世帯の家族類型別推移

出典：「国勢調査」(総務省統計局)

③ 3世代世帯及び高齢者のみ世帯数の推移

3世代世帯及び高齢者のみ世帯(夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯及び65歳以上世帯員の単独世帯)の推移を見てみると、3世代世帯の減少、高齢者のみ世帯の増加が顕著になっていることが分かります。

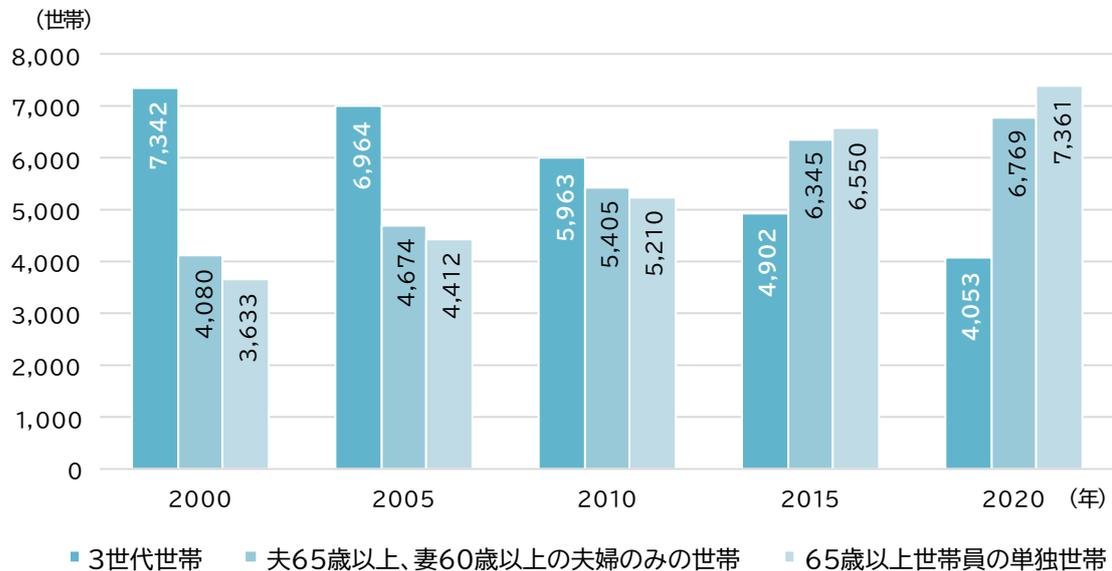


図4 3世代世帯及び高齢者のみ世帯数の推移

出典：「国勢調査」(総務省統計局)

(3) 居住の実態

居住の実態を世帯類型別に見ると、核家族以外の親族世帯（3世代世帯等）は持ち家率が9割を超えるのに対し、単独世帯の持ち家率は低く、5割以上が民営の借家に住んでいることが分かります。

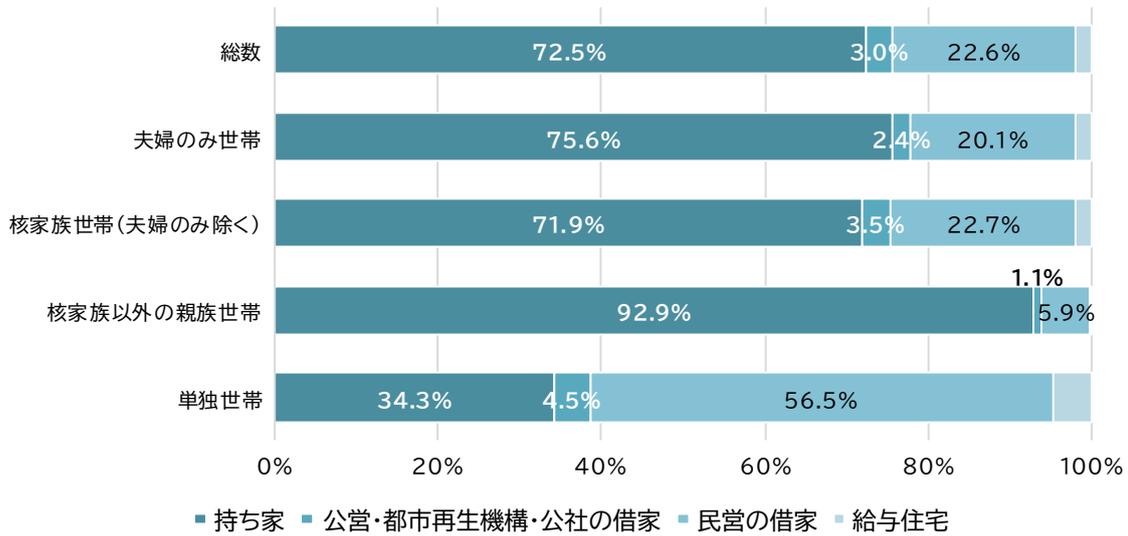


図 5 家族類型別の居住の実態

出典：「国勢調査」（総務省統計局）

(4) 空き家の状況

① 総世帯数と総住宅数

世帯数の増加に伴い、住宅数も増加を続けています。



図 6 総世帯数と総住宅数及び一世帯当たりの住宅数

出典：「住宅・土地統計調査」（総務省統計局）

② 空き家数と空き家率の推移

本市の空き家数は増加傾向にあるほか、本市の空き家率は国や鳥取県の数値を上回る状態が続いています。

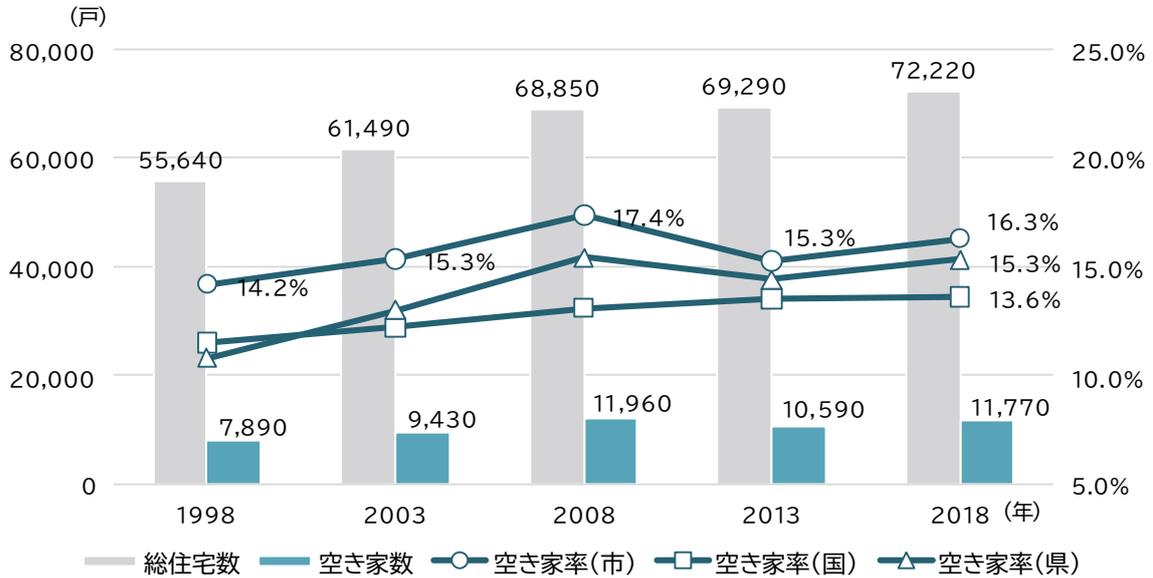


図 7 空き家数と空き家率の推移

出典：「住宅・土地統計調査」(総務省統計局)

③ 空き家の内訳

空き家は図8のとおり分類されます。増加しているのが「その他の住宅」です。「その他の住宅」は管理が不十分になる可能性が高い空き家と言えます。

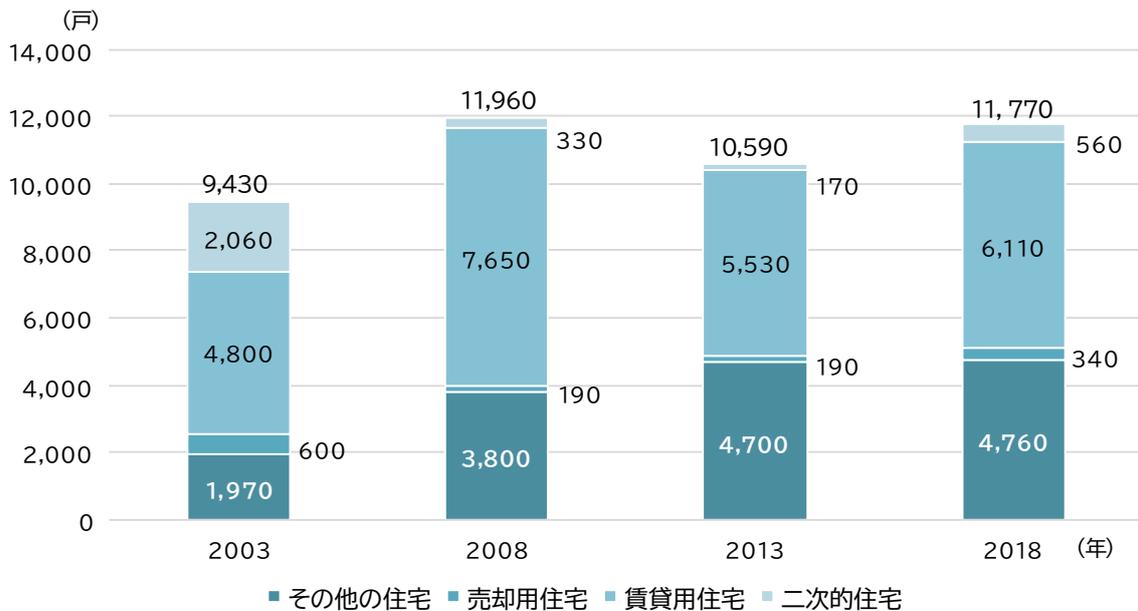


図 8 空き家の内訳と推移

出典：「住宅・土地統計調査」(総務省統計局)

(5) 市営住宅の状況

本市の市営住宅の管理戸数は21団地1,465戸です。

表2 市営住宅の管理戸数

住宅名	所在地	建設年度	戸数					
				一般	単身	車いす対応	シルバー	店舗
尚徳 ¹	青木	S44	36	25	11			
大垣 ²	淀江町淀江	S47、S48	22	22				
河崎 ³	河崎	S45～S51	358	318	40			
青木	永江	S51～S60	222	222				
上福原	皆生温泉4丁目	S54、S56	60	60				
富益	大崎	S57、S58	66	66				
堀	淀江町淀江	S58	12	12				
両三柳	両三柳	S61	24	24				
安倍彦名	彦名町	S62～H1	88	88				
富士見町	富士見町	H2	55	47	6	2		
錦海町	錦海町2丁目	H4、H5	74	62	8	4		
義方町	義方町	H7	16	16				
皆生	皆生5丁目	H7、H8	33	22			11	
陰田町	陰田町	H9	40	37		3		
加茂	両三柳	H11	72	62	6	4		
西福原	西福原8丁目	H13、H14	100	76	12	12		
白浜	淀江町西原	H19、H20	32	24	6	2		
五千石	福市	H23、H24	73	48	21	4		
万能町	万能町	S46	16	16				
大工町	大工町	S54	29	20	9			
東町	東町	H9	37	35				2
計			1,465	1,302	119	31	11	2

※令和5年3月1日現在

¹ 用途廃止予定

² 用途廃止予定

³ 一部用途廃止予定

(6) 住宅の耐震化率

「米子市耐震改修促進計画」では、本市の住宅耐震化の状況について、住宅・土地統計調査（平成30年）に基づき、令和2年度末の耐震化率の推計を行っています。推計によると、住宅総数約60,940戸のうち耐震性があると推計される住宅は約53,400戸で、耐震化率は約87%と想定しています。

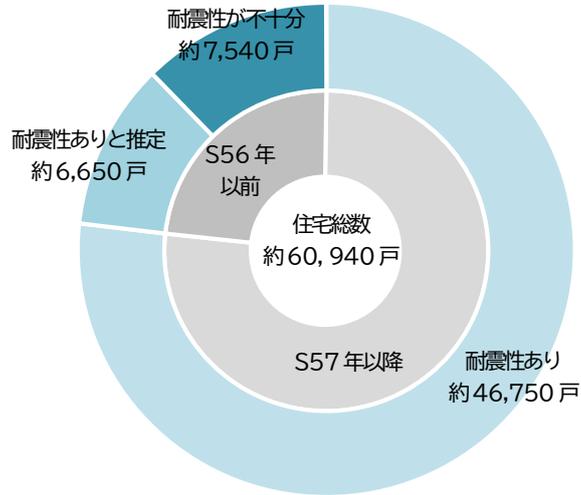


図9 住宅の耐震化の状況 (2020年度)

出典：「米子市耐震改修促進計画」

表3 新耐震・旧耐震の違いについて

新耐震基準	旧耐震基準
1981年改正。中規模の地震（震度5強弱程度）に対しては、ほとんど損傷を生じず、極めて稀にしか発生しない大規模の地震（震度6強～震度7程度）に対しては、人命に危害を及ぼすような倒壊等の被害を生じないことを目標としたものです。	1950年制定。震度5強程度の地震でも倒壊しないこととし、破損したとしても補修することで生活が可能な構造基準として設定されています。大規模の地震に対しては、特に規定は定められていません。

出典：「はじめよう！お家の耐震化！」（鳥取県）

(7) マンション⁴の状況

本市内のマンションの数は令和5年3月1日時点で61棟あります。築年数で分類すると築30年～40年未満のマンションが5棟、築40年～50年未満のマンションが6棟あることが分かります。

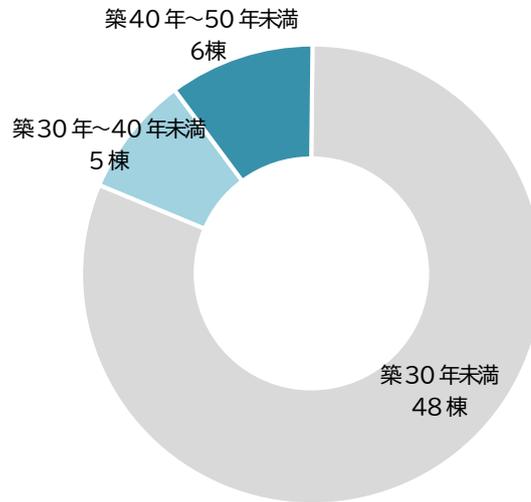


図 10 マンションの築年数

⁴ 二以上の区分所有者が存する建物で人の居住の用に供する専有部分のあるもの並びにその敷地及び附属施設をいう。(参考：マンションの管理の適正化の推進に関する法律)